

## 実践のまとめ（第4学年 道徳科）

新発田市立猿橋小学校 教諭 大黒 晃典

### 1 研究テーマ

「テーマ発問」を軸とした自己の生き方について考えを深める授業づくり  
～ 思考ツールを活用した対話を通して ～

### 2 研究テーマについて

#### (1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領において、道徳科の目標は「道徳的諸価値についての理解を基に、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と示されている。これまでの自身の実践を振り返ると、教材の読み取りのみに終始するのではなく、教材を用いて道徳的諸価値について理解を深めたり、友達と考えを交流したりしながら、納得できる考えを見出すことができるような授業づくりを心掛けてきた。その際、児童が物事を多面的・多角的に考えることができ、かつ、ねらいに沿った学びが成立するよう、発問構成を工夫してきた。

一方で、教科書の指導書に示されている発問例を見ると、「この時の主人公はどんな気持ちか。どう思っていたのか。」など、登場人物の心情を明らかにする発問が多いという印象を受ける。こうした発問のみで授業を構成した場合、学習が教材の読み取りにとどまり、深い学びの実現につながりにくいのではないかと考える。また、展開の後半に道徳的価値に迫る発問例が設定されている場合もあるが、児童にとって発問が唐突に感じられ、教材と自己の経験を結び付けて考えることが難しい場合もある。そこで、授業の導入段階で、児童がもともと持っている考えを揺さぶるため、テーマ発問（(2)①で後述）の形で学習課題を立て、それに沿って授業を展開してきた。導入時の児童の考えと終末の振り返りを比較することで、児童の変容を見取ることができた。このことから、テーマ発問によって学習課題を設定することは、児童が自己の生き方について考えを深める上で有効であったと考える。

現在、4学年の学級を担当している。元気で素直な児童が多く、積極的に自分の考えを表現しようとする児童も多い。6月に実施した道徳科の授業に関するアンケートでは、「道徳科の授業が好きだ」と肯定的に捉えている児童が大変多いことが分かった。一方で、自分の考えを伝えることに苦手意識をもつ児童も少なくない。発言が苦手な児童のノートを見ると、他の児童が発言しなかった視点で考えを記述しているものの、それを周囲に伝えることができない様相が見られた。児童が物事を多面的・多角的に考えるためには、どの児童も安心して考えを伝え合える場をつくり、多様な考えが表出する授業を行う必要がある。また、これまでの自身の授業を振り返ると、教師が児童の思考を誘導したり、教師と児童との対話を中心になったりする場面が多かった。そこで、児童同士の対話を増やし、児童自身が対話を通して考えを深めていく授業を目指したいと考えた。

以上のことから、本研究では、ねらいに沿った発問を吟味するとともに、対話を通して学びを深める手立てとして、思考ツールの有効性を検証することとした。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① テーマ発問

永田（2017）は、道徳科における発問について、場面発問とテーマ発問の両面から構想し、それらを相互に生かし合うことの重要性を提唱している。

	定義	発問例
場面発問	ある場面において、登場人物の心情や判断、行為の理由などを問うような発問	〇〇はどんな気持ちか。どう思ったか。 〇〇の心の中はどんなか。
テーマ発問	主題やテーマそのものに関わり、それを掘り下げたり追求したりする発問	〇〇には、どんな意味があるか。 〇〇は、どんな問題があるか。

本研究では、授業の事前学習や導入において、道徳的価値に対する児童の考えを引き出し、それを揺さぶりながら、テーマ発問の形で学習課題を児童とともに設定する。終末では、再度その学習課題に立ち返り、振り返りに自分の考えを記述させることで、児童の考

えの変容を見取る。

② 思考ツールを活用した対話

展開では、思考ツールを活用し、班で考えを整理しながら対話させる。ただし、整理すること自体が目的とならないよう、扱っている道徳的価値への気付きや理解につながるかを考慮し、使用する思考ツールを選定する。また、整理した思考ツールを互いに見合う時間を設定した後、班での対話内容を学級全体で共有する。

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ・授業の導入時の児童の考えと終末の振り返りの記述を比較し、自己の生き方について考えを深めることができたかを見取る。
- ・思考ツールを活用した対話によって、多様な考えが引き出され、道徳的価値への気付きにつながったかを見取り、その有効性を検証する。

3 指導計画

(1) 主題名

友達と仲を深めるために（内容項目B－9 友情、信頼）

(2) 教材名

「大きな絵はがき」（新編新しいどうとく4 東京書籍）

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

中学年という発達段階においては、集団との関わりが広がり、友達関係が多様になっていく時期である。気の合う友達を見つけて関係を深めようとする一方で、相手にどう思われるかを気にして自分の思いを伝えられなかったり、相手のために思ってしまった行動が誤解を生み、関係が上手くいかなかったりすることも少なくない。このような実態を踏まえると、友達と関係を深めていくためには、相手の立場や気持ちを思いやりながら行動することや、互いに信頼し合うことの大切さに気付かせる必要があると考えた。

児童は、これまでの道徳科の学習を通して、「友達をつくるために大切なこと」について考えてきている。本主題では、その学びを基に、単に仲良くすることにとどまらず、「友達とよりよい関係を築き、深めていくためには何が大切か」という視点から、友情や信頼についての考えを一層深めることをねらいとして設定した。

② 教材と児童

本学級の児童は仲が良く、休み時間には楽しそうに遊ぶ姿が多く見られる。一方で、友達がきまりを守らない場面に出会っても、関係が悪くなることを心配して注意できずに見て見ぬふりをしてしまう姿や、友達から注意を受けた際に、その思いを受け止めきれず反発してしまう姿も見られる。

本教材では、遠くで暮らす友達・正子の間違いに気付きながらも、それを伝えるべきかどうか迷う広子の姿が描かれている。広子の葛藤は、児童が日常生活の中で経験している

「友達のために思って、どう行動するか」という悩みと重なりやすく、教材の内容を自分事として捉えさせやすいと考えた。また、「自分だったら間違いを教えるか、教えないか」という問いを通して、児童が主人公に自己投影しながら、多様な考え方に触れることができる教材であると考えた。

本時では、二つの対立する立場について整理しながら考えることができる「バタフライチャート」を活用する。教える（または教えない）理由を付箋に書き、班で対話しながら整理することで、自分とは異なる立場の考えにも目を向けさせたい。立場が偏っている場合には、双方の考えが出るように促すことで、多面的・多角的に考える姿勢を育てる。その後、終末で学習課題に立ち返り、友達と仲を深めていく上で大切なことについて改めて考えさせることで、友情や信頼の在り方について、自分なりの考えを深めさせたい。

(4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1 学 期	学級活動「男女なかよくしよう」（5月）	「合い言葉は「話せばわかる！」」（6月）B－10 相互理解、寛容 「ひびが入った水そう」（7月）	会社活動（通年） 運動会（5月） SST（6月）

		B-9 正直、誠実	
2 学期	国語「あなたなら、どう言う」 「クラスみんなで決めるには」 (10月) 国語「友情のかべ新聞」(11月) 学級活動「友達のよさを再発見 しよう」(11月)	「ぼくらだってオーケスト ラ」(9月) B-9 友情、信 頼 「大きな絵はがき」(9月) B-9 友情、信頼 「秋空にひびくファンファ レ」(10月) C-15 よりよい 学校生活、集団生活の充実	会社活動(通年) 持久走記録会(10月) 音楽交歓会(11月)
3 学期	学級活動「学級目標について振 り返ろう」(3月) 学級活動「もうすぐ5年生」(3 月)	「日ごろの気持ちをつたえよ う」(1月) B-7 感謝 「ドッジボール」(2月) A- 1 善悪の判断、自立、自由と 責任	会社活動(通年) 6年生を送る会(2月)

### (5) 本時のねらい

自分だったら広子に間違いを教えるかどうかについて考えて、バタフライチャートを用いて整理しながら対話することを通して、友達と仲を深めるために大切なことに気づき、互いに信頼し合い、助け合おうとする態度を育てる。

### (6) 本時の展開 (令和7年9月30日実施)

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童(生徒)の反応	◇留意点
事前	□アンケートを取り、教材を範読する。	○アンケートを取る。 ・友達と仲を深めるために、大切なことは何か。 ・そのように考える理由。 ○教材(P.152~P.154)を範読する。	◇ノートに記述させ、集計しておく。
導入	□本時で学習するテーマについてイメージを膨らませて、学習課題を立てる。	○アンケートの結果を見てください。 ・一緒に遊ぶだけでいいのかな。 ・本当のことを言い合うのは当たっている気がする。 <b>学習課題</b> 友達と仲を深めるために、大切なことは何か。	◇学習するテーマを「親友」と設定し、事前のアンケート結果を提示する。児童の考えを揺さぶり学習課題の設定に繋げる。
展開	□教材の内容を確認し、自分ならどうするか考えをもつ。 □グループで対話し、意見をバタフライチャートに整理する。	○まずは、内容を確認しましょう。(次の3点を確認する。) ・正子と広子は友達であり、料金不足は正子の間違いで起こったこと ・正子に間違いを伝えることで、嫌な思いをさせてしまうかもしれないと考えていること ・広子が正子に間違いを教えるか迷っていること ○もし、あなたが広子なら、正子に間違いを教えますか。教えませんか。また、どうしてそうするのですか。 <b>教える</b> ・また正子が間違ってしまうかもしれないから。 ・正子ならきっと分かってくれるはず。 <b>教えない</b> ・けんかになったら、どうしよう。 ・これぐらい別にいいよ。	◇挿絵を示しながら、確認する。  ◇班で考えをバタフライチャートに整理する。立場が偏った班は、全て埋めるように促す。対話の後に、離席して他の班の考えを見て納得した考えを探す時間を設ける。
終末	□バタフライチャートから道徳的価値	○友達と仲を深めるために大切なことは何ですか。 ・お互いのことを理解し合うこと	◇これまでの学習から考えさせ、児童の考えを板書す

<p>値に迫る。 □学習課題に立ち返って、本時の振り返りを行う。</p>	<p>・認め合うこと ○学習の振り返りをしましょう。友達と仲を深めるうえで、注意することは必要だと思いますか。 ・友達と仲を深めるためには相手を思いやることが大切だと思います。理由は、相手を大切にすることになるからです。これまでは、勇気が出なくて注意できなかったけど、これからは友達がよくないことをしていたら、相手のことを思って注意できるようにしたいです。</p>	<p>る。 ◇書き出しを指定して記述させる。また、「これまで」「これから」という言葉を入れて記述させる。</p>
--	--	--

(7) 本時の評価

① 評価の視点

- ・本時の学習を通して、友情や信頼の在り方について考え、それを自分自身の生き方として捉え直そうとしているか。
- ・バタフライチャートを活用した対話を通して、多様な考えを引き出したり、自分とは異なる立場の考えについても受け止めたりしながら、考えを深めているか。

② 評価の方法

- ・児童の振り返りの記述から、友達と仲を深めるために大切なことについて、自分なりの考えや気づきが具体的に記述されているかを見取る。
- ・授業中の様子を録画するとともに、対話場面を録音し、対象児の発言内容や関わり方、バタフライチャートへの記述の様子から見取る。

4 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① テーマ発問について

事前アンケートにおいて、「友達と仲を深めるために、大切なことは何か。」と問い、自分の考えとその理由をノートに記述させた。その結果、すぐに考えが思い付かず、多くの児童が時間をかけて記述している様子が見られた。特に、「一緒に遊ぶこと」と回答した児童が多かった。このことから、友情や信頼に関わる道徳的価値についての理解が十分とは言えず、自分の考えがどのように友達との関係を深めることにつながるのかを考えた経験が少ないという学級の実態が明らかになった。そこで、本時の導入では、事前アンケートの結果を整理して提示した。その際、「認め合うことが大切だと思う。」という意見に対して、多くの児童が共感を示している様子が見られた。これを受けて、「友達と仲を深めるために、大切なことは何か。」という学習課題を設定した。

終末では、再度学習課題に立ち返り、「仲を深めるために大切なことは何か。」と問い掛けた。その結果、「相手を理解すること」という考えが挙がった。さらに、「理解するだけでよいのか。」と問い返すことで、「認め合うこと」や「相手にも理解してもらうこと」も大切であるという考えへと広がりが見られた。これらのことから、テーマ発問を学習の軸として設定することは、児童が教材の理解にとどまらず、自己の生き方へと思考を広げる上で有効であることが確認できた。

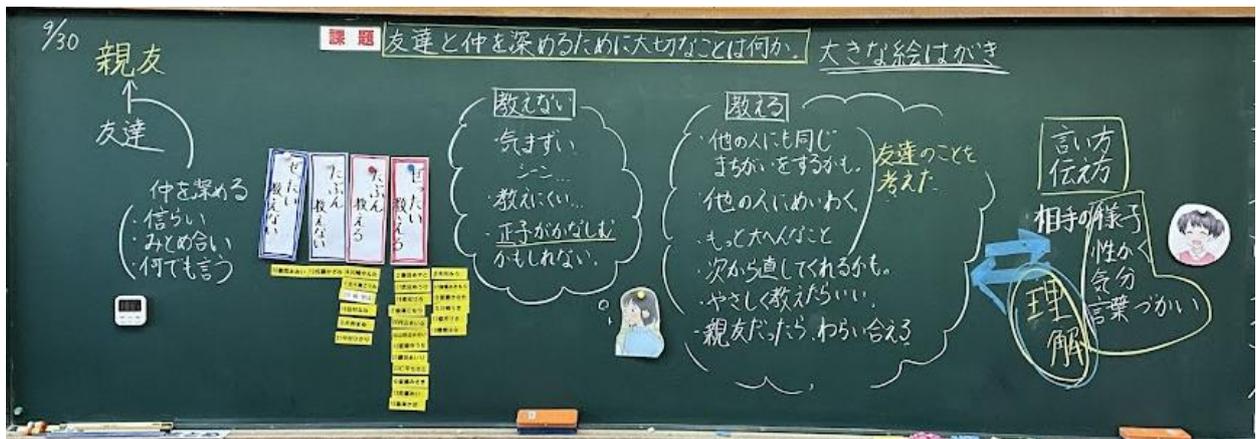
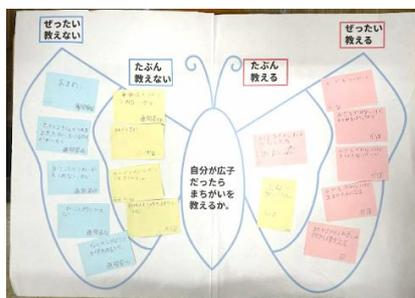
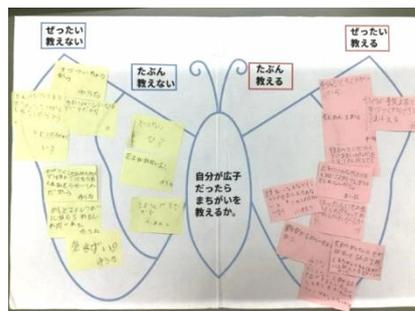


図1 当日の板書

② 思考ツールを活用した対話について

本時の展開において、ネームプレートを用いて自分の立場を明確にさせたところ、正子に間違いを「絶対教える」「たぶん教える」と答える児童がほとんどであった。その後、考えた理由を児童一人一人が付箋に記入し、バタフライチャートに整理しながら対話を進めた。A児の班では、全員が「絶対教える」を選択していた。A児はその理由として、「正子が他の人にも同じことをしてしまうかもしれない、伝えないと（正子の間違いについて）ずっと考えてしまいそうだから。」と考えていた。また、A児を含めた班の児童は、友達の考えと自分の考えを比較しながら話し合う姿を見せていた。そこで、「教えない」という立場の理由について考えるよう促したところ、A児は当初、考えをもてない様子であったが、班での対話を通して、「正子を傷付けてしまうかもしれないから。」という考えに納得している様子が見られた。さらに、「でも、教えることで傷付けてしまうかもしれないから、優しく教えるといいんじゃないかな。」と発言する児童もおり、「教える」という立場の考えと関連付けながら、班で話し合う様子が見られた。



バタフライチャートに整理された付箋の数や内容から、他の班においても、児童一人一人が自分の考えを伝え合い、活発な対話が行われたことが分かる。また、教師が付箋の貼られていない立場の考えについても整理するよう促したところ、どの班でも話し合いながら考えを広げ、記入する様子が見られた。

(2) 研究テーマに関わる評価

① テーマ発問について

対象児の事前アンケートの回答と、本時終了後の振り返りの記述は（表1）に示す。

表1 対象児の事前アンケートの回答と振り返りの記述

	事前アンケートの回答	振り返りの記述
A児	たくさん話すこと 理由 たくさん話す仲間が深まると思うから。	わたしは、今日の学習で、お互いが理解をすれば仲間が深まるということが分かりました。これまではお互いを理解できてなかったと思うけど、これからは理解をして、理解してもらえようと思います。
B児	信頼し合うこと 理由 信頼し合うと、相手を頼って会う機会が増えるから。	友達と仲を深めるために大切なことは理解し合うことだと思います。理由は、教えても理解しないと変な風に捉えられてしまってもよくないと思うからです。今までは仲を深めることをあまり考えていなかったけど、これからは相手を理解したり、してもらえたりするようにしていきたいです。
C児	相手の気持ちを理解する、認め合う 理由 相手の話を理解できないと、話を止められてしまうことがあるから。	僕は、友達と仲を深めるためには、理解することが大切だと分かりました。 <u>最後に友達が言ったように互いに理解することがもっと大切だと思いました。</u> これからは時には教えたり、時には教えなかったりしながらお互いに理解をしたいと思います。

(表1)に示したA児とB児の記述を比較すると、友達と仲を深めるために大切なことについての捉え方に変化が見られ、新たな道徳的価値に気付いている様子がうかがえる。一方、C児は、大切だと考えている内容自体に大きな変化は見られないものの、振り返りにおける下線部の記述から、友達の意見を取り入れながら、「理解すること」と「理解し合うこと」の違いに気付いている様子が読み取れる。このことから、C児は、もともと持っていた考えを、対話を通してより確かなものへと補強したと考えられる。以上のことから、対象児はいずれも、対話を通して自分の考えを見直したり深めたりしながら、自己の

生き方について考えを深めることができたと言える。これは、終末において学習課題である「友達と仲を深めるために、大切なことは何か。」に立ち返り、全体で話し合う中で「理解し合うことが大切」という意見が共有され、対象児がそれに納得したことが一因であると考えられる。同様に、振り返りの記述において、自身の考えの変容や今後の行動への言及が見られた児童は、26名中17名であった。

② 思考ツールを活用した対話について

授業の実際からも分かるように、班での対話は活発に行われていた。付箋を貼っていない児童が一人もいなかったことから、誰もが安心して自分の考えを伝え合う手立てとしてバタフライチャートを活用した対話は有効であると言える。各班のバタフライチャートを見ると、付箋の数が多く、内容も多様であった。また、付箋が貼られていない立場の理由についても考えるように促すことで、どの班においても話し合いながら意見を広げ、記入する様子が見られた。初めは「分からない」と考えていた児童も、対話を通して自分とは異なる立場について考えたり、その考えに納得したりする姿が見られた。付箋に書かれた主な記述は、(表2)に示す通りである。

表2 各立場における付箋の記述(一部抜粋)

立場	付箋の内容(関連する <u>主な道徳的価値</u> )
教える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正子のためになるから。友達なら間違いを教え合うことで仲良くなれるから。(友情、信頼)</li> <li>・ 優しく伝えれば伝わると思うから。(親切、思いやり)</li> <li>・ このままだと他の人にも送ってしまい、他の人に迷惑になるかもしれないから。(規則の尊重)</li> <li>・ 言った方が親友でいられると思うから。(善悪の判断)</li> <li>・ 正子の間違いを隠したくないから。ずっと言えなくなるかもしれないし、何も教えないとモヤモヤするから。(正直、誠実)</li> </ul>
教えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手に失礼かもしれないから。(礼儀)</li> <li>・ せっかく送ってくれたのに、教えることで傷付けてしまうかもしれないから。教えることで仲が悪くなるかもしれないから。けんかになるかもしれないから。(人間の心の弱さ)</li> </ul>

(表2)から、児童が様々な道徳的価値や人間の心の弱さに関連付けながら思考していたことが分かる。これらのことから、多様な考えを引き出すとともに、自分とは異なる立場について考える上で、バタフライチャートを活用した対話は有効であると考えられる。

(3) 今後の課題

本実践では、テーマ発問を軸に授業を構成することで、児童が自己の生き方について考えを深める姿が見られた。一方で、学習課題は教師が設定した事前アンケートを基に提示したものであり、必ずしも児童の思考の流れから生まれたものとは言い難い。今後は、児童の発言や記述を基に学習課題を引き出し、主体的に学びを進めていく方策を検討していきたい。

また、思考ツールを活用した対話は活発に行われたが、活動が盛んであったため、授業者が児童の考えを十分に見取ることができず、多様な道徳的価値を授業中に適切に取り上げ、価値付けることができなかつた点は課題である。授業後に付箋の記述を読み返すと、友情や信頼、思いやり、正直など、多様な道徳的価値につながる考えが数多く見られた。このことから、記述内容を「理由」ではなく、教える(または教えない)際の「心情」とするなど、より道徳的価値に迫る工夫が必要である。今後は、教材やねらいに応じて思考ツールを選択し、児童の気づきを道徳的価値へとつなげる授業構想について研究を深めていきたい。

(引用・参考文献)

- ・ 文部科学省, 『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』, 東洋館出版社, 2017.
- ・ 永田 繁雄, 『これからの道徳教育で特に求められること—道徳教育の改善と充実—(新潟県立教育センター 平成29年度 豊かな心をはぐくむ道徳教育講座 講話・演習用補助資料)』, 2017.
- ・ 『道徳教育』編集部, 『考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集』, 明治図書出版社, 2019.
- ・ 中村 優輝, 『直球勝負で問いかける 小学校道徳科授業づくり』, 東洋館出版社, 2022.
- ・ 黒上 晴夫, 『思考ツールでつくる考える道徳』, 2019.